



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

バーチャル渋谷でハロウィンを

渋谷のハロウィンイベントもオンライン開催に

昨年 2020 年 10 月 31 日、コロナ禍で外出自粛や渋谷区による指定時間内の飲酒禁止条例が提示されている中、渋谷区には約 1 万人のハロウィンを楽しむ人々が集まった。しかしこれは 2019 年度と比較すると 6 万人減という結果となり自粛要請の効果があつたことがうかがえる。

渋谷区ではニューノーマルのハロウィンを楽しんでもらうために、渋谷駅の周辺を 3DCG で再現した「バーチャル渋谷」をオープンし、アバターに扮した若者が集える場所をオンライン上に構築した。その結果、スマホアプリやパソコンから 6 日間で 40 万人がアクセスした。

今年も 2020 年に続き 2 回目のハロウィンイベントがオンライン上で開催される。新型コロナウイルスの感染拡大が一旦落ち着きつつあるなか、ハロウィンの時期には渋谷に人が殺到し、ゴミのポイ捨てや路上での排泄、店舗の破損等が問題になるとして、渋谷区側もバーチャル渋谷の利用を呼びかけている。

経済効果の変化は？

2019 年の「ハロウィン」の推計市場規模は、約 1,155 億円だった。(日本記念日協会)バレンタインデーの 1,260 億円や母の日の 1,205 億円にも劣らない市場規模があることから、今や日本経済において無視できない重要なイベントとなっている。ハロウィンをきっかけとした購買活動の機会に制限が設けられることは、日本経済にとっての損失といえる。

「バーチャル渋谷」ではプロジェクトを通じて特別グッズなどを販売し、その販売利益のすべてを渋谷区へ還元することで、バーチャル空間から渋谷の街づくりへ貢献する。



渋谷駅周辺の街並みを 3DCG で再現した、渋谷区公認のオンラインスペース「バーチャル渋谷」
Source：バーチャル渋谷特設サイト



コロナ前の渋谷区。警備費に 1 億円以上かけている。イベント中に起こる事故、事件やイベント後のゴミが問題となっている。

ハロウィンは古代から形を変えて現代に受け継がれています。日本での歴史はまだ浅いですが、ハロウィンは様々な国で行われている子供たちが楽しみにしているイベントです。そんなイベントがコロナウイルスの影響により当たり前のこととして楽しめなくなっています。

今回のオンラインハロウィンイベントは一つの例ですが、伝統を繋いでいくためにその継承の仕方にも変化が求められています。ネット社会と現実社会を別のもので捉えず、1 つの繋がりといいながら、今世界に起こっている問題をネットと現実の両側から解決していくことも、これからの持続可能な社会を作っていくうえで私たちに求められる知恵なのかもしれません。

(西出)